

2008年度 早稲田大学 社会科学部

日本史 解答例

I 古代の政治 <標準>

問1ニ 問2ハ 問3維摩経 問4ニ 問5イ

問6醍醐天皇 問7ロ 問8ロ 問9ニ 問10イ

問2のロの「官位十二階」は、「冠位十二階」の誤りだが単なる誤植で、これを正解としてはいないだろうと推測される。問6の史料は頻出史料の「意見封事十二箇条」だが、問8では史料中の有名ではない部分の読解力が問われている。

II 中世の史料 <やや易>

問1新田義貞 問2北条高時 問3ハ 問4ロ 問5ニ

問6イ 問7ホ 問8ハ 問9ニ 問10ロ

史料をきちんと読解しなければ正解できない問題となっている。とくに問3は早とちりして不正解だった受験生が多いだろう。また、問6はニも正文だが、管領についての問題なのでイを正解とした。

III 近世初期の外交 <やや易>

問1ニ 問2イ 問3イ 問4本地垂迹 問5ホ

問6ホ 問7紅毛人 問8ハ 問9ハ 問10カピタン

問1は戦国時代オタクな受験生にとっては簡単な問題だったかもしれないが、一般的な入試の出題率から言えば大変難問であった。逆に他の設問はどれも正解すべき問題である。どうだっただろうか。たとえば問6が正解できなかった人は、明らかに早大シフトがとれていない。そのポイントは夏期講習の早慶大向けの講座で行っている。

IV お雇い外国人 <標準>

問1ニ 問2イ 問3西国立志編 問4万国博覧会 問5ハ

問6ニ 問7ホ 問8ニ 問9ハ 問10ホ

御雇外国人を取りあげながら、明治時代の法制度を出題している。落とし穴が各所

に配されているため、難しく感じた受験生が多いのではないだろうか。しかし、十分な対策を取っていれば、本当の難問は問7だけで済んだはずである。

講評

正誤問題は答えを1つ選ばせる問題ばかりで、「2つ選べ」とか、「該当するものがない場合は……」といった意地悪な形式で作られてはいない。しかし、細心の注意を払って取り組まないと落とし穴にはまってしまう問題が多く、けっして簡単に正解できないように作問されている。正解するには細かい知識が必要とされる問題も目立つが、一方で論理的に推測する能力を必要とされる問題も目立つ。その能力は一朝一夕に会得できるものではないため、できるだけ早い時期に意識改革をしなければならぬだろう。受験日本史を暗記科目ととらえるステージから脱却してほしい。